

氏名	小 濱 常 昭		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	博乙第 2075 号		
学 位 授 与 の 日 付	平成元年 12 月 31 日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	培養ヒト腎癌細胞の増殖におよぼす化学免疫療法剤、温熱、放射線照射の影響		
論 文 審 査 委 員	教授 折田薫三	教授 木村郁郎	教授 佐藤二郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

進行性腎細胞癌の効果的な治療法の開発を目的として、ヒト腎癌由来培養細胞株 KPK1 の増殖におよぼす各種療法剤の単独処理の影響を検討した。

インターフェロン β , γ , ビンカアルカロイド (VBL, VCR, VDS) 剤, 温熱および放射線照射は KPK1 細胞の増殖に対し抑制的に作用した。インターフェロンは β , γ とも濃度・時間依存性の増殖抑制作用を示し, その程度は β が有意に高かった。ビンカアルカロイド剤は 3 剤とも強い増殖抑制作用を示したが, 薬剤間の差は認められなかった。温熱処理は 43℃ 以上で抑制作用を認めた。放射線照射は 500 rads 以上で強い抑制作用を認めた。インターフェロン α およびホルモン剤では, それらの高濃度においても, KPK1 細胞の増殖抑制作用が認められなかった。

以上の結果は, インターフェロン β , γ あるいはビンカアルカロイド剤を応用した免疫化学療法, 温熱療法, 放射線療法などの組み合わせによる集学的治療の腎細胞癌への適応の可能性を示唆するものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

進行腎癌には有効な治療法がなく, 極めて難治性の癌である。本研究者はヒト腎癌由来培養株細胞を用いて, IFN- α , β , γ , ホルモン剤, ビンカアルカロイド剤, 温熱, 放射線療法の単独あるいは併用による in vitro での増殖抑制効果を検討し, 温熱療法下の IFN- β , γ , あるいはビンカアルカロイド剤の投与, さらに放射線療法を組み合わせると相加的抗腫瘍効果をもつことを見出している。これは in vivo においても腎癌に対する集学的治療法の可能性を示唆するもので, 本研究者は医学博士の学位を得る資格のあることを認める。